

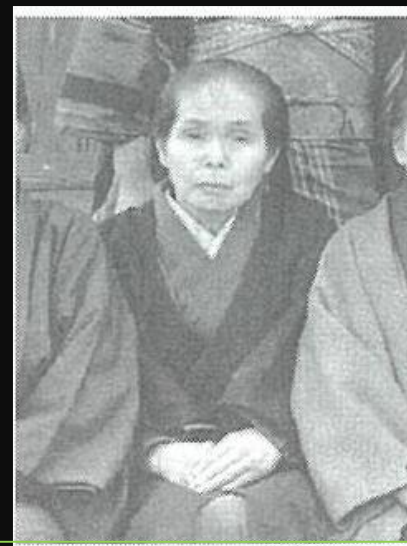
# 福田与志先生 追悼式

ふくだよしせんせい

ついとうしき



紙芝居画  
池尻都先生



教え子ハルさんの  
のその後を取材  
しました

# 追悼式(ついとうしき)とは

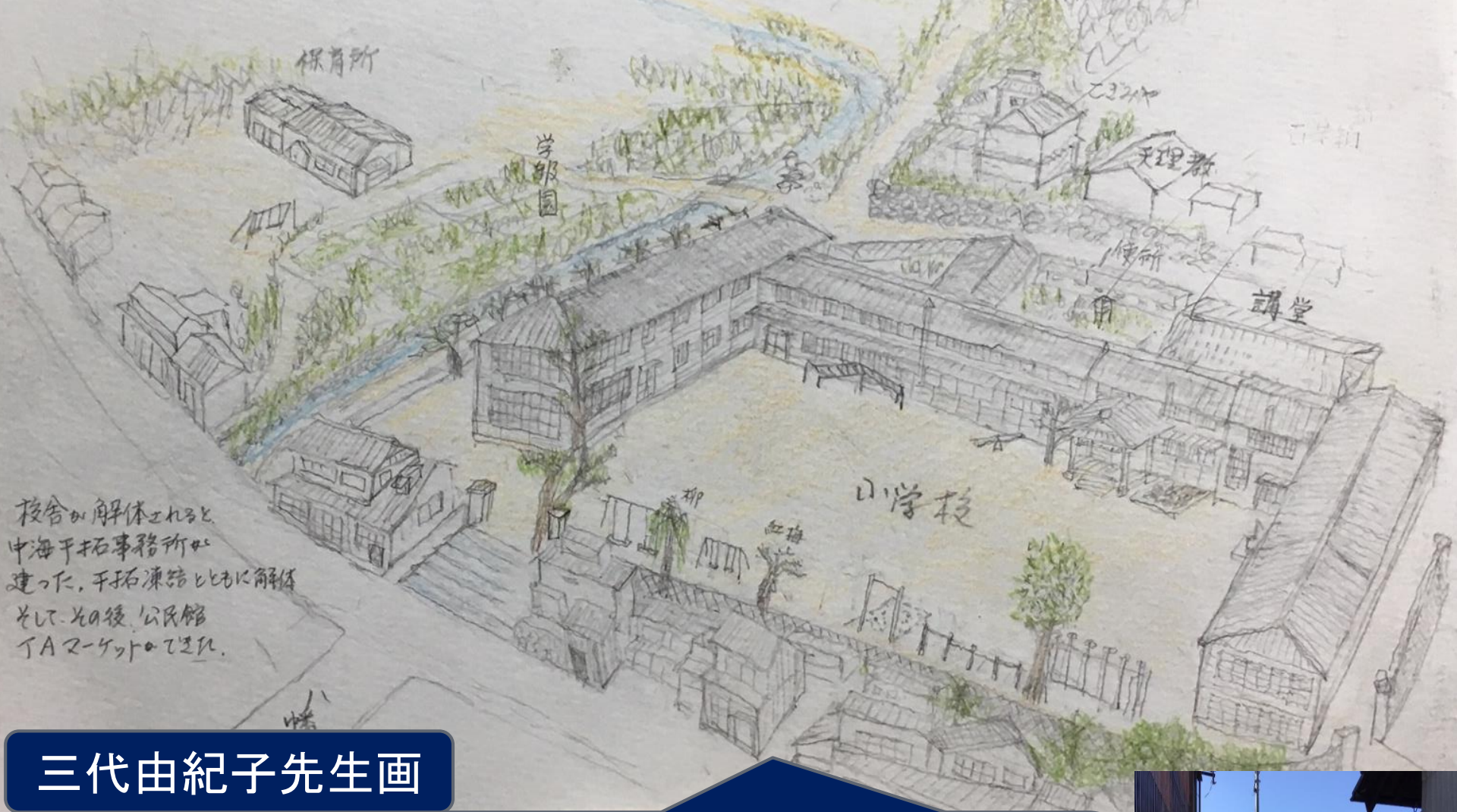
- 11月28日は、本校の創立者である福田与志先生の命日(めいにち:なくなられた日)です。
- 松江ろう学校のみなんで与志先生の功績(こうせき:すばらしい仕事の成果)をふり返って、しのびたいと思います。

## 与志先生がろう学校をつくったきっかけ

- 与志先生は子どもが好きで、18歳のときに、松江市の本庄(ほんじょう)小学校の先生になりました。
- そのころ、与志先生の宿の近所に女の子がいました。
- 女の子は学校へ通って勉強することができず、また友だちとも思うように遊べなくて、一人で小さくなっていました。



女の子の名前は石橋ハルさん。  
耳がきこえませんでした。



学校の校庭のそばに  
**石橋ハル**さんの生家があったようです。  
現在は空き地になっていましたが、学校を  
いつものぞける所に住んでいたのですね。



## 与志先生がろう学校をつくったきっかけ

- そのころの時代は、障がい者に対する差別(さべつ)や偏見(へんけん)があり、勉強は無理、必要なしとされて、盲学校やろう学校はありませんでした。
- また、どこの小学校にも通わせてもらえませんでした。

## 与志先生がろう学校をつくったきっかけ

- 与志先生は心を痛めて悲しまれました。
- 何とかしたい、みんなと同じように勉強させたいと思い、ハルさんをよんで勉強を教えていたようです。

ハルさんは、きっとかしこい  
子どもだったと思います。  
わかることがうれしくなり、  
もっと勉強したい！ 与志先  
生に明日も会いたい！ と明  
るく元気になって通ったこと  
と思います。

思いました

そこで校長先生は





## 与志先生がろう学校をつくったきっかけ

- そんなハルさんを見て、与志先生は、もっと上手にことばや勉強を教えられないかと思ったことでしょう。
- そのために、きこえない子どもを教える知識と技術を学びたいと、兄の平治さんに相談しました。
- そのころ、京都や東京にはすでに、盲やろうの子どものための学校がありました。

## 与志先生がろう学校をつくったきっかけ

- 与志先生は平治さんにすすめられ、8年間つとめた本庄小学校の教員をやめて、遠い京都盲啞院(もうあいん)へ行って、きこえない子ども  
の教育を学ぶ決心をしました。





京都盲啞院(もうあいん)で子どもに教えている与志先生。情熱をもって教え、学校の中で指導者も育てられる先生になりました。



京都盲啞院(もうあいん)にグラハム・ベルが講演  
に来たときの写真です。与志先生は「盲ろう教育は  
公(おおやけ)の責任である」というベルの話に感  
銘(かんめい)を受けられました。ハルさんは13歳  
になっていましたが、この学校に連れてきて、専門  
の教育を受けることができました。

# ハルさんのその後パート1

甲  
簿書類  
唾一年生  
石橋はる  
筆アキ  
石鯨  
二瓶ドビン  
袴分カマ  
金銀  
里屋スミ  
金ナブ  
一栗カリ

乙  
算術科  
唾一年生  
石橋はる  
十本 四銭  
二本 八銭  
白紙 三枚  
十き 九厘  
九半人  
十六十七 十八十九十一十二

丁  
作文科  
二橋はる  
風言敷 二石盤  
鳥がトブ。舟三ノル  
女子が簪ヲサス  
字ニカク  
石筆ヲ買ヒマシタ  
大筆ヲサケマシタ  
米ニヲモヒマシタ

ハルさんは、日本語の力を身につけ、裁縫(さいほう)も上手(じょうず)で、立派(りっぱ)な成績(せいせき)をおさめたそうです。



# 京都盲啞院でベルの講演を学ばれた ときの与志先生の写本(しゃほん)です

龍耳人の関スル誤謬 (龍耳教育掲載)  
 一八八三年十月廿七日 コロロビア州 ワシントン州  
 学舎に於て アレキサンダー グラハムベル氏ノ演説  
 センモノナリ

予ハ哲學會員傍君ニ予ガ近時研究問題即チ龍耳啞  
 關スル誤謬及ビ彼等ノ境遇改善ヲ妨遏スル誤謬ノ影  
 響ニ就キテ聊カ數言ヲ陳ズルノ榮ヲ喜ブ  
 凡ソ社會ニ於テ龍耳ノ分布流行ニ就キ適當ナル思慮ヲ運  
 ラスヲ甚ダ困難ナリ 准カ一國中具知巳朋友中ニ聽音器ヲ  
 用ヤルハ余活シ得ザル龍耳ノ有セザル此ニ又是等龍  
 朋友ガ殆ド皆成年ニ達セルモノナリ一ノ奇異ナラスヤ  
 吾人知所ノ兒童ニシテ同シリ龍耳ノ此ナルモノ何處ニ在ヤ

## 龍耳啞・關スル誤謬

第三分號  
 大正二年 月 日  
 龍耳啞院

きこえない子どもにもきちんと  
 教育を行えば、一人前になれる  
 ことを、当時の偏見をとるために  
 示したかったのだと思います。

# 松江私立盲啞(もうあ) 学校の設立へ

- そうして、与志先生は京都や東京で6年間教員をしながら、33歳のときに松江に帰ってきました。
- そして平治さんの協力を得て、本校の前身である松江私立盲啞(もうあ)学校を設立されました。
- 場所は松江市母衣(ほろ)町、今の裁判所(さいばんしょ)の近くです。



## 松江私立盲啞(もうあ)学校の設立へ

- 民家(みんか)の部屋を借りての開校でした。
- 入学したのは11名の子ども、先生は校長先生の与志先生を入れて3名でした。
- 全国で11番目の盲啞学校でしたが、初めての女性による創立でした。中国四国では初めての学校でした。



## 苦しかった経営

- しかし、**学校の経営は苦しく**、県に補助(ほじょ)のお願いを何度もされましたが、よい返事をもらえませんでした。
- そこで、**寄付**を集めに回り、自分の給料や財産をすべて投げ打って、子どもたちの教育や生活に力を注(そそ)ぎました。

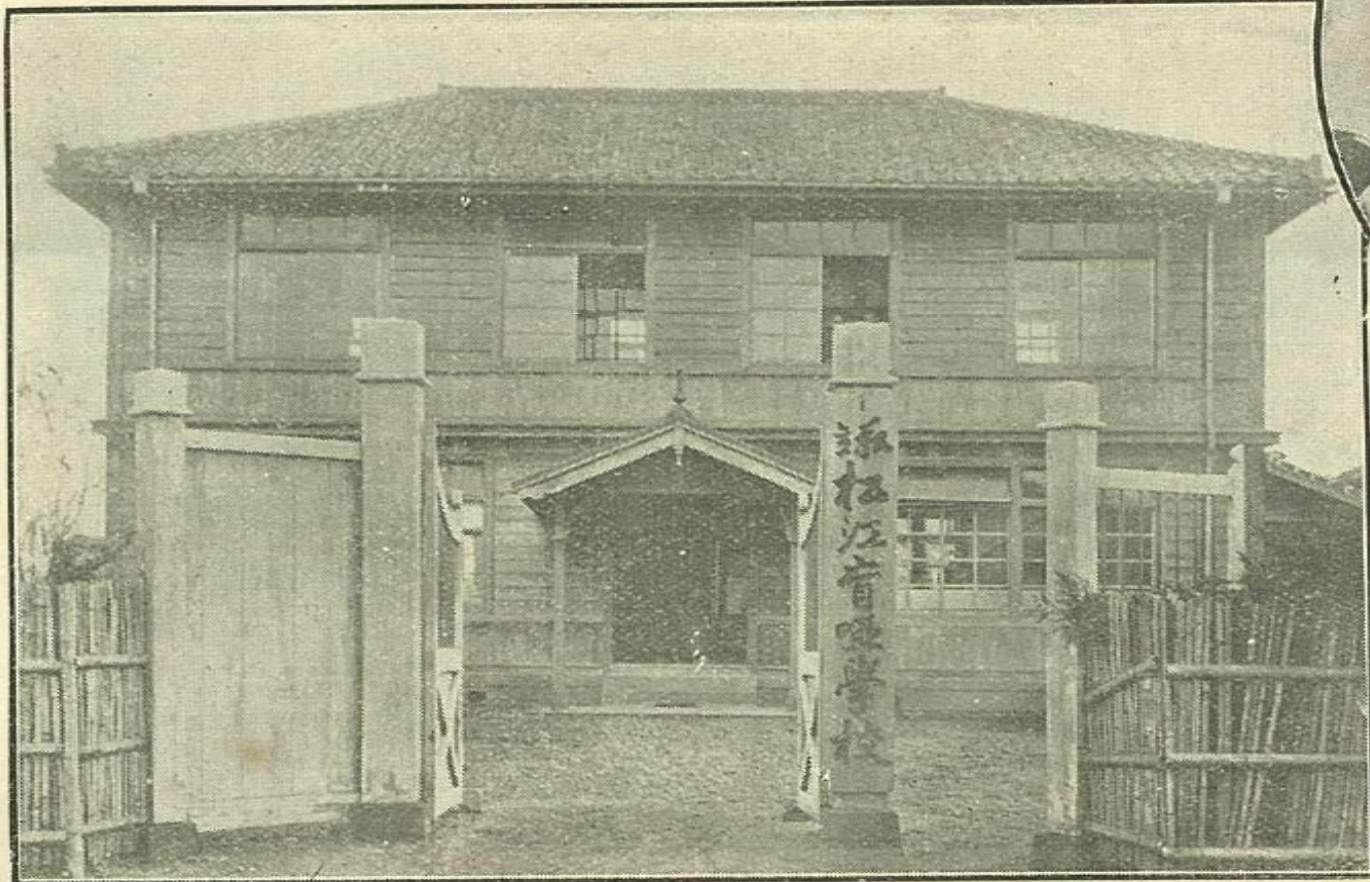
# 苦しかった経営 寄付のお願いに回る与志先生



# 周りに認められてきた盲啞学校

- **与志先生**は、盲やろうの子どもも教育を受けることで、一人前に伸びることを知ってもらったために、学校で自分の授業を見てもらったり、子どもを連れて講演に回ったりして訴えました。
- こうして、少しずつ**人々の理解が広がりました。**
- そして、**国や県の補助**が受けられるようになり、**新たな校舎と寄宿舎**が建てられました。

松江市外中原にできた新校舎  
明治44年(1911)  
子ども36名 先生8名



故福田女史

松江市外中原私立松江盲啞學校舎々

## 周りに認められてきた盲啞学校

- ようやく**与志先生の願い**が実を結び、**花開き**始めたのです。
- ところが、新しい校舎が建った翌年、
- これからもっと専門の授業を充実させていきたいと思っていたところに、**不幸**がおこりました。
- 与志先生**は重い病気にかかり、一か月余り**病床**につきました。

## 与志先生 逝(い)く

- 与志先生は自分のお金だけでなく、生活のすべてをかけて、寄宿舍で子どもと共に寝起きしていました。
- 『君は逝(い)きけり 氷雨(ひう)の夜に』

みぞれの降る寒い夜、与志先生は寄宿舍の一室で、子どもたちに見守られながら帰らぬ人となったのです。



大正元年11月28日  
まだ40歳の若さでした。

# 与志先生の愛の精神をしのぶ

- 『教え子おもう ひとすじに』  
生徒のために一生けんめい尽くされた  
与志先生は、
- 『すべてを 愛のにえとして』  
『鬼神(おにがみ)なかつ まごころ』  
のように とてもやさしい愛の精神を  
もたれた先生でした。

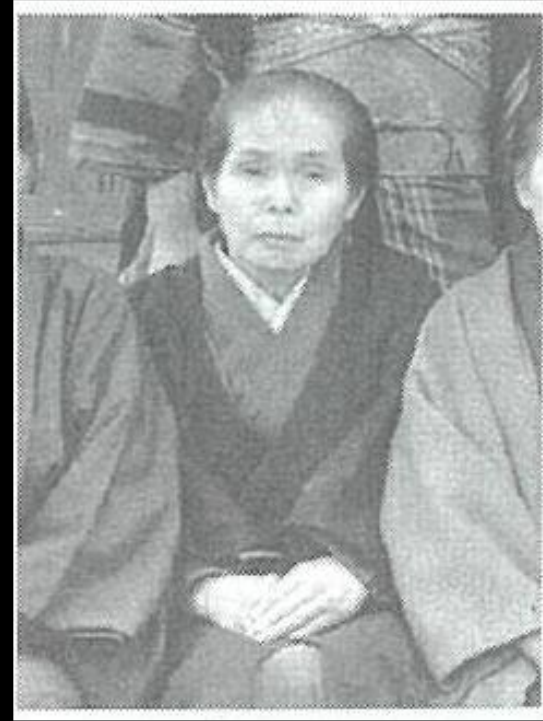


# 与志先生の愛の精神をしのぶ

- 与志先生の愛の精神の結晶(けっしょう)である松江ろう学校は、いま盲学校と一緒に着実に歩んでいます。
- 本日は、このおおもとを築いてくださった与志先生に対して、今から120年前の先生のご苦勞に思いをはせ、その情熱的な愛の精神をしのんで、心から感謝したいと思います。

## ハルさんのその後パート2

- 最後に、与志先生の一番の教え子であるハルさんの後を追ってみました。
- 京都盲啞院を修了して、本庄町に戻ったようです。
- そして本庄町の実家から近い門脇家に後妻として嫁ぎ、昭和30年に72歳で亡くなられるまで家族に囲まれながら幸せにすごしました。



ハルさんの孫になる門脇良一さんは  
平成6、7年に古江小学校長として  
盲学校やろう学校に式典に来られたそうです。  
与志先生とハルさんが結びつけた深い縁の  
つながりに感動しました。



手と心でつながる

わかりあえる喜び

～笑顔あふれる松ろう～

写真：飯塚 佑先生